

浄土平の湿原

浄土平の高原の大部分は落葉樹林や常緑樹林や湿原に覆われており、標高は 1,600 メートルにも及びます。ここの湿地帯は、渡り鳥や珍しい亜高山植物といった多様な動植物の生息地となっています。雨季（6 月中旬から 7 月下旬）には、鮮やかなピンクのイワカガミやワタスゲ、薄紫のハクサンシャクナゲなどの野花がそこら中に咲き乱れます。湿原周辺のさまざまな自然遊歩道が浄土平ビジターセンターからつながっており、20 分から 5 時間のコースまで用意されています。

浄土平湿原

浄土平湿原（1,580m）に生育する植生のほとんどが、1893 年の一切経山の噴火後にできた原生林です。コケや亜高山植物に加え、ゴヨウマツの低木が点在します。夏季には渡り鳥がこの辺の湿地帯にやってきて、日本ウサギやテン、オコジョといった動物は 1 年を通して目にすることができます。

浄土平ビジターセンターが開始地点となっているボードウォーク（約 20 分）からは、浄土平の湿原固有の植生や生態系を間近に観察することができます。一部は車いすでもアクセス可能です。

酸ヶ平湿原

鎌沼北端部付近のこの小さな湿地帯には、多種多様な亜高山植物が生育しています。夏には、

紫色の花びらを持つ原生のミヤマリンドウ（*Gentiana nipponica*）が咲き誇ります。酸ヶ平湿原（1,766m）は、浄土平湿原から約 40 分で到達できます。

姥が原湿原

この湿地帯では、5 月下旬から 6 月上旬にかけて、ワタスゲの白い茂みが形成され、薄いピンクのタカネザクラが咲き誇ります。6 月と 7 月には小さな白い花びらを持つチングルマが咲き、7 月と 8 月にはクロマメノキが薄いピンクの綺麗な花を咲かせます。姥が原湿原（1,778m）は、鎌沼の南西側に位置し、北東側には酸ヶ平湿原が位置しています。浄土平ビジターセンターからは姥が原まで約 1 時間で到着します。

谷地平湿原

この孤立した湿地帯は山々に囲まれ、オオシラビソの原生林に隣接しています。豊富な亜高山植物が生育しており、秋には、谷地平の草がひとときわ目を引くオレンジと黄金の色合いに変化します。

谷地平（1,504m）までのハイキングは、姥が原から起伏に富んだ森林のトレッキングコースを通じて約 1 時間です。この湿地帯を周るボードウォークまでのルートでは川を渡り、一部では岩から岩へジャンプして進みます。雨季や大雨の後には水かさが増し、渡れないこともあります。浄土平ビジターセンターからの往復ルートは所要時間約 5 時間で、経験者以外には推奨されません。

景場平湿原

東吾妻山（1,975m）から流れる地下水の栄養を受けている景場平湿原には、多くの種類の原生する亜高山植物が生い茂っています。春から秋にかけてはさまざまな花が咲き誇り、6月に咲くピンクの花びらのイワカガミ、9月に咲く紫色のエゾリンドウ（*Gentiana triflora* var. *japonica*）などがあります。

湿原には東吾妻山山頂からは約1時間、または磐梯吾妻スカイライン沿いの鳥子平登山口から約30分で到着します。

鳥子平湿原

高山（1,804m）の麓に位置する小さな沼地、鳥子平（1,606m）は、アカエゾマツ、トドマツ、オオシラビソの針葉樹林に囲まれています。ここでは、6月に、小さな白い花びらで中心が黄色の花が特徴的なチングルマを探してみましょう。6月と8月には、数年に1度花を咲かせるコバイケイソウ（*Veratrum stamineum* var. *gladrum*）が一気に花を咲かせ、高さ1メートルの茎の上に咲く白い花が湿原を埋め尽くします。

この湿地帯は、磐梯吾妻スカイライン沿いの鳥子平駐車場から短いコースで、あるいは、兎平から2

キロのコースを通過して到達できます。

樽平湿原

樽平駐車場から徒歩 20 分の場所にある樽平湿原（1,658m）までの道のりには、ダケカンバが立ち並びます。6 月には、ゴゼンタチバナやマイヅルソウが足元に群生しています。樽平湿原には、数年に一度、6 月と 7 月に目にすることができるコバイケイソウ最大級のコロニーがあります。